

安全データシート

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	ホルマリン
会社名	株式会社オーシカ
住所	東京都板橋区舟渡1-4-21
担当部門	化成品事業部
電話番号	03-5916-8858
緊急連絡電話番号	03-3966-5125 (中央研究所)
推奨用途及び使用上の制限	合成樹脂原料 (水産、養殖、農業用へは使用禁止)
整理番号 (SDS-ID)	SDS-1513

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	
引火性液体	区分4
人健康有害性	
急性毒性 (経口)	区分4
急性毒性 (経皮)	区分3
皮膚腐食性/刺激性	区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分2
呼吸器感作性	区分1
皮膚感作性	区分1
生殖細胞変異原性	区分2
発がん性	区分1A
生殖毒性	区分1B
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	区分1 (・神経系 ・呼吸器) 区分2 (・視覚器 ・全身)
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	区分1 (・呼吸器 ・中枢神経系) 区分2 (・視覚器)

環境有害性

水生環境有害性 短期 (急性)	区分2
水生環境有害性 長期 (慢性)	区分3

絵表示又はシンボル

どくろ 健康有害性



注意喚起語

危険

危険有害性情報

●皮膚刺激 ●水生生物に毒性 ●アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ ●発がんのおそれ ●長期継続的影響によって水生生物に有害 ●可燃性液体 ●皮膚に接触すると有毒 ●長期にわたる, 又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ (・視覚器) ●長期にわたる, 又は反復ばく露による臓器の障害 (・呼吸器 ・中枢神経系) ●臓器の障害のおそれ (・視覚器 ・全身) ●臓器の障害 (・神経系 ・呼吸器) ●吸入するとアレルギー, ぜん (喘) 息又は呼吸困難を起こすおそれ ●生殖能又は胎児への悪影響のおそれ ●遺伝性疾患のおそれの疑い ●飲み込むと有害 ●強い眼刺激

注意書き

使用前に本製品に関する技術資料を入手すると共に, すべての安全注意および取扱い方法を理解するまで取り扱わないこと。熱, 高温のもの, 火花, 裸火及び他の着火源から遠ざけること。禁煙。取扱い後はよく手や顔を洗うこと。静電気放電に対する予防措置を講ずること。環境への放出を避けること。この製品を使用する時に, 飲食又は喫煙をしないこと。使用前に取扱説明書を入手すること。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。火災を発生しない工具を使用すること。粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。換気が不十分な場合, 呼吸用保護具を着用すること。子供の手の届かないところに置くこと。

気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。飲み込んだ場合: 気分が悪い時は、医師に連絡すること。呼吸に関する症状が出た場合: 医師に連絡すること。皮膚に付着した場合: 特別な処置が必要である(「4. 応急措置」を参照)。皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹼で洗うこと。皮膚に付着した場合: 衣類を再使用する場合には洗濯すること。皮膚に付着した場合: 汚染された衣類を直ちに全て脱ぐこと。皮膚に付着した場合: 気分が悪いときは、医師に連絡すること。眼に入った場合: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。吸入した場合: 気分が悪いときは、医師に連絡すること。空気の新鮮な場所に移し、呼吸のしやすい姿勢で休息させること。ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師に連絡すること。ばく露又はばく露の懸念がある場合: 特別な処置が必要である(「4. 応急措置」を参照)。ばく露又はばく露の懸念がある場合: 医師の診断/手当てを受けること。皮膚刺激が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。火災の場合: 消火に「5. 火災時の措置」に記載の消火剤を使用すること。涼しいところに置くこと。乾燥した場所に保管すること。換気の良い場所に保管すること。施錠して保管すること。容器を密閉しておくこと。直射日光を避けて保管すること。

内容物、容器の廃棄においては、国の関係法規及び地方自治体の条例や規則に従うこと。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。

GHS判定に関する情報

GHS分類判定は、「JIS Z 7252:2019」に基づいている。また国連文書「化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS) 改訂6版」を参考にしている。GHS分類結果が「区分に該当しない」、「分類できない」の項目は記載していない。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別
組成

混合物

成分名	含有量 (%)	CAS No.	化審法No.
ホルムアルデヒド	36.5~38.5	50-00-0	2-482
水	52.5~56.5	7732-18-5	非該当
メタノール	7~9	67-56-1	2-201

4. 応急措置

吸入した場合	空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。呼吸に関する症状が出た場合: 医師に連絡すること。気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。
皮膚に付着した場合	皮膚刺激又は発疹が生じた場合: 医師の診断/手当てを受けること。気分が悪いときは医師に連絡すること。気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。多量の水と石鹼で洗うこと。汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
眼に入った場合	医師の診断/手当てを受けること。気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。気分が悪いときは医師に連絡すること。眼の刺激が続く場合: 医師の診断/手当てを受けること。水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易にはずせる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
飲み込んだ場合	気分が悪いときは、医師の診断/手当てを受けること。気分が悪いときは医師に連絡すること。口をすすぐこと。
予想される急性症状及び遅発性症状	息苦しさ。肺水腫。排尿障害。喘息様症状。催涙。鼻、喉の灼熱感。視力喪失。血尿。咳。吐き気。頭痛。
応急措置をする者の保護	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の保護手袋、衣類、及び眼、顔面用の保護具を着用すること。換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。応急措置の際、救助者は自分の皮膚に触れたり、眼に入らぬよう注意する。
医師に対する特別な注意事項	安静と医学的な経過観察が必要。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	炭酸ガス。大量の噴霧水。耐アルコール性泡消火剤。粉末ドライケミカル。乾燥砂。
使ってはならない消火剤	知見なし(データなし)。
特有の危険有害性	加熱により容器が爆発するおそれがある。火災により刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。

特有の消火方法

移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。火災が広がらないよう、付近の着火源になるものを速やかに取り除く。火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。消火作業の際には風上から作業する。周辺の着火していないドラム・タンク・設備・建物等に放水し、延焼、加熱、破裂の防止に努める。消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。

消火を行う者の保護

必ず適切な保護具を着用する。消火作業は風上から行き、発生ガスや煙を吸い込まないように対応ができる呼吸用保護具を着用する。屋内の場合、処理が終わるまで充分に換気を行う。消火後は製品内部が冷却するまでロープを張り、人の立ち入りを禁止する。

6. 漏出時の措置
人体に対する注意事項

蒸気の吸入や皮膚への接触を防止する。直接皮膚や眼に付着しないようにする。粉じん、ガスを吸入しないようにする。作業の際には適切な保護具を着用する。漏出した場所の周囲にロープを張り、人の立ち入りを禁止する。風下の人を避難させ、漏出場所から人を遠ざけ、風上から作業する。作業後は洗顔手洗いする。

保護具及び緊急時措置

状況に応じて保護具（呼吸用保護具、化学防護服、手袋、長靴、眼鏡、マスク等）を着用し、当該物質の吸入や直接接触を避ける。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。

環境に対する注意事項

側溝、下水、河川に流出しないように注意する。本製品を環境中（水域、土壌）に放出してはならない。多量に河川、湖沼へ流入した場合は、必要に応じ、警察署・消防署・都道府県市町村の公害関連部署河川管理局・水道局・保健所・農協・漁協等に直ちに連絡を取る。大量にこぼれた場合は盛り土で困う等して排水溝への流出を防止し、できるだけ安全な場所で処理する。

回収、中和

漏出液を密閉できる容器に出来る限り集め、残留液を土、砂、ケイソウ土等不活性物質に吸着させて密閉容器に回収する。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐこと。危険でなければ、漏出源を遮断し、漏れを止める。こぼれた場合は速やかに回収し、拡散防止に努める。少量の場合、水で希薄な溶液とし次亜塩素酸塩水溶液を散布して分解する。

**封じ込め及び浄化の方法・機材
(二次災害の防止策)**

漏出した場所の周囲にロープを張り、人の立ち入りを禁止する。漏出物を取扱う時に用いる全ての設備は接地する。関係箇所に通報し応援を求める。付近の着火源、高温体及び可燃物を速やかに取り除く。

7. 取扱い及び保管上の注意
取扱い
技術的対策

「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の保護手袋、衣類、及び眼、顔面用の保護具を着用すること。屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。直接人体に触れないよう、不浸透性の手袋等の保護具を着用する。直接手で取り扱うような作業法は避ける。周辺での高温物、スパーク、火気の使用を禁止する。一禁煙、火気、静電気、衝撃火花等による着火源が生じないように注意する。静電気対策のため、装置等は接地し、電気機器類は防爆型（安全増型）のものとする。また作業衣、作業靴は導電性のものを用いる。作業終了後は、うがい手洗いを十分に行う。

混触接触禁止物質

酸化剤。

保管
安全な保管条件
適切な技術的対策

施錠して保管すること。

適切な保管条件

換気の良い場所に保管すること。直射日光を避けて保管すること。乾燥した場所に保管すること。容器を密閉しておくこと。涼しいところに置くこと。

避けるべき条件

高温多湿。直射日光。火源。低温で貯蔵すると白色重合物が生成し、又高温貯蔵ではギ酸の生成が加速される。

混触禁止物質

酸化剤。

安全な容器包装材料
推奨材料

ポリエチレン製容器。ステンレス鋼製容器。鋼製容器（ポリエチレン内容器付き）。アルミニウム製容器。製品の容器で保管すること。

不適切材料

銅、ニッケル、その他ある種の合金は長時間接すると腐食され、ホルマリンを着色するおそれがある。

衛生対策

保護具は清潔で有効なものを使用すること。
取扱い後はよく手を洗うこと。

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度	<ホルムアルデヒド として> ①0.1 ppm (0.12 mg/m ³) [日本産業衛生学会(2007), 許容濃度暫定値], ②0.2 ppm (0.24 mg/m ³) [日本産業衛生学会(2007), 最大許容濃度暫定値], ③0.3 ppm (0.37 mg/m ³) [ACGIH, STEL] <メタノール として> ①200 ppm [260 mg/m ³ (日本産業衛生学会(皮)(2007))], ②200 ppm [ACGIH, TWA], ③250 ppm [ACGIH, STEL]
管理濃度	<ホルムアルデヒド として> 0.1ppm <メタノール として> 200 ppm
設備対策	取扱場所の近くには身体洗浄シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する。空気中の濃度を暴露限度以下に保つために排気用の換気を行うこと。屋内作業場での使用時は、発生源の密閉化を行う。
保護具	
呼吸器の保護具	有機ガス用防毒マスク (JIS T 8152)。空気呼吸器 (JIS T 8155)。換気が不十分な場合、呼吸用保護具を着用すること。
手の保護具	静電気対策手袋。不浸透性手袋。ゴム手袋。
眼の保護具	保護面。保護眼鏡 (JIS T 8147)。ゴーグル型保護眼鏡。
皮膚及び身体の保護具	ゴム前掛け。安全帽 (ヘルメット)。ゴム長靴。長袖の作業衣 (不浸透性のもの)。静電気防止作業着。安全靴。

9. 物理的及び化学的性質

外観 (物理的状態, 形状)	液体。
色	無色透明。
臭い	強い刺激臭。
融点/凝固点	<ホルムアルデヒド として> -92°C (ガス)
沸点又は初留点及び沸騰範囲	100°C (37%水溶液, 推定値)
可燃性	知見なし (データなし)。
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界	<ホルムアルデヒド として> 7% - 73% v/v <メタノール として> 6.0 - 36vol%
引火点	64~68°C (タグ密閉式)
自然発火点	<ホルムアルデヒド として> 300°C <メタノール として> 464°C
分解温度	知見なし (データなし)。
pH	2.5~5.0
粘度	1.7~2.5 mPa·s
動粘性率	知見なし (データなし)。
溶解度	水に易溶、アルコール類に可溶
n-オクタノール/水分係数 (log値)	<ホルムアルデヒド として> 0.35
蒸気圧	518.6 KPa (3890mmHg) (25°C)
比重 (相対密度)	知見なし (データなし)。
相対ガス密度	1.03 (空気=1)
粒子特性	非該当。

10. 安定性及び反応性

反応性, 化学的安定性	ホルムアルデヒドは重合する特徴があり、経時変化により酸性が強くなる。
危険有害反応可能性	火気により引火、爆発の危険がある。酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。ホルムアルデヒドは反応性に富み、メチロール化物やメチレン化物を生成する。
避けるべき条件	混触危険物質との接触。加熱。
混触危険物質	酸化剤。
危険有害な分解生成物	燃焼により、一酸化炭素、二酸化炭素、ホルムアルデヒド蒸気、ギ酸を生成する。

11. 有害性情報

各成分の有害性区分判定 急性毒性（経口）	[ホルムアルデヒド：区分4]、[メタノール：区分4]
急性毒性（経皮）	[ホルムアルデヒド：区分3]
急性毒性（吸入：気体）	[ホルムアルデヒド：区分2]
皮膚腐食性／刺激性	[ホルムアルデヒド：区分2]
眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性	[ホルムアルデヒド：区分2]、[メタノール：区分2]
呼吸器感作性	[ホルムアルデヒド：区分1]
皮膚感作性	[ホルムアルデヒド：区分1]
生殖細胞変異原性	[ホルムアルデヒド：区分2]
発がん性	[ホルムアルデヒド：区分1A]
生殖毒性	[メタノール：区分1B]
特定標的臓器毒性（単回ばく露）	[ホルムアルデヒド：区分1：神経系, 呼吸器]、[メタノール：区分1：中枢神経系, 全身, 視覚器, 区分3：麻酔作用]
特定標的臓器毒性（反復ばく露）	[ホルムアルデヒド：区分1：中枢神経系, 呼吸器]、[メタノール：区分1：中枢神経系, 視覚器]
各成分の有害性情報 【急性毒性】	<p>●皮膚に接触すると有毒 ●飲み込むと有害 <ホルムアルデヒドとして> ①【経口】600～700mg/kg 及び 800mg/kg [ラット, LD50, SIDS (2003)], ②【経皮】270 mg/kg [ウサギ, LD50, HSDB (Access on June 2017)], ③【吸入】480 ppm [ラット, LC50, 4hr, SIDS (2003)] <メタノールとして> ①【経口】6200 mg/kg [ラット, LD50, EHC 196 (1997)], ②ヒトで約半数に死亡が認められる用量：1400 mg/kg [EHC 196 (1997)], ③【経皮】15800 mg/kg [ウサギ, LD50, DFGOT vol.16 (2001)], ④【吸入（蒸気）】>22500 ppm [ラット, LC50, DFGOT vol.16 (2001)]</p>
【皮膚腐食性／刺激性】	<p>●皮膚刺激 <ホルムアルデヒドとして> ウサギを用いた皮膚刺激試験及びヒトへの健康影響データで、中等度～軽度の刺激性が認められた [EHC 89 (1989)]</p>
【眼に対する重篤な損傷性／眼刺激性】	<p>●眼刺激 <ホルムアルデヒドとして> 動物を用いた眼刺激性試験で、軽度ではない眼刺激と完全な混濁がみられた [EHC 89 (1989)] <メタノールとして> ウサギ、Draize試験：中等度の刺激性 [EHC 196 (1997)]</p>
【呼吸器感作性又は皮膚感作性】	<p>●吸入するとアレルギー、ぜん（喘）息又は呼吸困難を起こすおそれ ●アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ <ホルムアルデヒドとして> 呼吸器感作性：感作性物質として報告されている [日本産業衛生学会 (2007)] 皮膚感作性：皮膚感作性物質として報告されている [日本産業衛生学会 (2007)]</p>

【生殖細胞変異原性】

●遺伝性疾患のおそれの疑い
 <ホルムアルデヒドとして>
 生殖細胞 in vivo 変異原性試験 (マウス精母細胞における染色体異常試験) で陰性、体細胞 in vivo 変異原性試験 (小核試験、染色体異常試験) で陽性 (ただし直接ばく露部位の胃腸管細胞、肺胞細胞に限る)、生殖細胞 in vivo 遺伝毒性試験はない[SIDS (2002)、CERI・NITE有害性評価書 No71 (2005)]

【発がん性】

●発がんのおそれ
 <ホルムアルデヒドとして>
 ①2A / 人間に対しておそらく発がん性があると考えられる物質 (証拠がより十分な物質) [日本産業衛生学会], ②A1 / ヒトに対して発がん性が確認された物質 [ACGIH]

【生殖毒性】

●生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
 <ホルムアルデヒドとして>
 ラットの催奇形性試験において、吸入ばく露 (妊娠6-20日目/投与頻度6H/D) 39ppmで、親動物に体重増加減少及び胎児の平均体重の減少 (21%)の他は、生存児数、胚吸収数に影響はみられない。
 <メタノールとして>
 ①妊娠マウス、器官形成期の吸入暴露: 胎児吸収、脳脱出 [PATTY (5th, 2001)], ②吸入または経口暴露: 口蓋裂 [EHC 196 (1997), DFGOT vol.16 (2001)]

【特定標的臓器毒性 (単回ばく露)】

●臓器の障害のおそれ ●臓器の障害
 <ホルムアルデヒドとして>
 ①ヒトで、気道への刺激性 [ACGIH (7th, 2001)], ②気道への刺激性、鼻や口蓋神経の感受性低下、視床下部への影響 [CERI・NITE有害性評価書No71 (2005)], ③実験動物で、気道への刺激性、筋肉など全身の痙攣、肺水腫 [SIDS (2002)]
 <メタノールとして>
 中枢神経系: 代謝性アシドーシス、視覚障害、失明、頭痛、めまい、嘔気、嘔吐、クスマウル呼吸、クスマウル昏睡 [ヒト] [DFGOT vol.16 (2001)、EHC 196 (1997)]。
 視覚器: 眼に対する障害は特徴的。
 全身毒性: 頭痛、嘔気、嘔吐、頻呼吸、昏睡。
 麻酔作用: ①マウス 麻酔作用あり [EHC 196 (1997)、PATTY (5th, 2001)], ②ヒト 麻酔作用あり [PATTY (5th, 2001)]

【特定標的臓器毒性 (反復ばく露)】

●長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害 ●長期にわたる、又は反復ばく露による臓器の障害のおそれ
 <ホルムアルデヒドとして>
 ①ヒトで、刺激性に起因する呼吸器への影響、中枢神経系への影響 [ECETOC TRI (1979)], ②実験動物で、鼻の組織への扁平上皮化生、咽頭への扁平上皮化生、気管管腔の炎症、体重減少、気管支上皮の化生、呼吸困難、不穩、背彎姿勢、死亡等の報告がある [CERI・NITE有害性評価書 No71 (2005)]
 <メタノールとして>
 中枢神経系: 頭痛、めまい、不眠症、胃障害 [ACGIH (7th, 2001)]
 視覚器: ①広範な眼に対する障害 [EHC 196 (1997)], ②失明 [ACGIH (7th, 2001)]
 知見なし (データなし)。

【誤えん有害性】

12. 環境影響情報

【生態毒性】

<ホルムアルデヒドとして>
 水生生物に毒性がある。甲殻類 (オオミジンコ) 24時間LC50 = 2 mg/L (WHO EHC:1989)。
 <メタノールとして>
 ①15400mg/L [ブルーギル, LC50, 96hr, EHC 196 (1998)], ②1340mg/L [ブラウンシュリンプ, LC50, 96hr, EHC 196 (1998)]

【残留性・分解性】

<メタノールとして>
 良分解性 [化審法データベース]

【生態蓄積性】

<ホルムアルデヒドとして>
 急速分解性があり (良分解性、BODによる分解率: 91% (化審法DB:1989))、蓄積性がないが (LogKow: 0.35 (PHYSPROP Database:2017))、甲殻類 (ニセネコゼミジンコ) の7日間NOEC (生残率) = 1.0 mg/L (NICNAS PEC:2006) である。
 <メタノールとして>
 難水溶性でない (水溶解度=1000000mg/L) [PHYSPROP Database (2009)]

【土壌中の移動性】

知見なし (データなし)。

【オゾン層への有害性】

知見なし (データなし)。

13. 廃棄上の注意

廃棄上の注意	内容物、容器の廃棄においては、国の関係法規及び地方自治体の条例や規則に従うこと。廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
残余廃棄物	大量の水を加えて希薄な水溶液（2%以下）にした後、次亜塩素酸塩水溶液を加えて分解した後、廃棄する。又は、水酸化ナトリウム水溶液等を加えアルカリ性とし、過酸化水素水で分解した後、大量の水で希釈して処理する。残余廃棄物は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方自治体で処理を行っている場合はそこに委託して処理する。
汚染容器及び包装	空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後に処分する。空き容器・汚染容器・包装は都道府県知事の許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託する。

14. 輸送上の注意

輸送上の注意	輸送前に容器の破損、腐蝕、漏れなどのないこと及び容器の蓋が確実に閉まっていることを確かめる。転倒、落下、損傷のないように積み込み、荷崩れ防止を確実に行う。
国内規制	
陸上輸送	消防法、労働安全衛生法等に定められている運送方法に従う。
海上輸送	船舶安全法に定められている運送方法に従う。
航空輸送	航空法に定められている運送方法に従う。
国際規制	
海上輸送	IMO, IMDGの規制に従う。
航空輸送	ICAO, IATAの規制に従う。
国連番号 (UN No.)	2209
国連分類 (Class.)	Class 8 (腐食性物質等)
品名 (Name and Description)	FORMALDEHYDE SOLUTION with not less than 25% formaldehyde
容器等級	容器等級Ⅲ
海洋汚染物質	非該当。

15. 適用法令

労働安全衛生法	
第 57 条 名称等を表示すべき危険物及び有害物 (表示物質)	[ホルムアルデヒド: 別表第9-548], [メタノール: 別表第9-560]
第 57 条の 2 第 1 項 名称等を通知すべき危険物及び有害物 (通知物質)	[ホルムアルデヒド: 別表第9-548], [メタノール: 別表第9-560]
有機溶剤中毒予防規則 (有機則)	第2種有機溶剤等
特定化学物質障害予防規則 (特化則)	[ホルムアルデヒド: 第2類物質]
労働省基発 312 号の 2 に掲げる物 (変異原性)	非該当。
化学物質排出把握管理促進法 (PRTR法)	[ホルムアルデヒド: 特定第1種/411]
消防法	非危険物 (指定可燃物可燃性液体類)
毒物及び劇物取締法	[劇物: ホルムアルデヒドを含有する製剤]
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律 (化審法)	[ホルムアルデヒド: 優先評価化学物質/25]
船舶安全法	八 腐食性物質
海洋汚染防止法	海洋環境の保全の見地から有害である物質: 「Y類物質」/ホルムアルデヒド溶液 (濃度が四十五重量パーセント以下のものに限る。)
大気汚染防止法	[ホルムアルデヒド: 特定物質05、有害大気汚染物質224 (優先取組物質)、揮発性有機化合物], [メタノール: 特定物質/06、揮発性有機化合物]
水質汚濁防止法	[ホルムアルデヒド: 指定物質/1]
その他の該当法規	[メタノール: 埼玉県生活環境保全条例/特定化学物質]

16. その他の情報

主な引用文献

○「製品安全データシートの作成指針」[日本化学工業協会] ○「危険物・毒物処理取扱いマニュアル」[海外技術資料研究所] (1974) ○「ザックス 有害物質データブック」[丸善] (1990) ○「日本化学物質 安全情報センター 特別資料 No.62」(1992) ○「知っておきたい職場の化学物質」[中央労働災害防止協会] ○「原料の安全データシート」○「危険物データブック」○国連文書「化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS)改訂6版」○化学大辞典 ○化学便覧・基礎編 ○独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE), 化学物質情報提供システム ○「作業環境評価基準(告示第26号)」[労働省] ○「JIS Z 7252:2019 GHSに基づく化学品の分類方法」[財団法人日本規格協会] ○「JIS Z 7253:2019 GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)」[財団法人日本規格協会] ○「許容濃度等の勧告」[日本産業衛生学会] ○「化学防災指針集成」[日本化学会(丸善)] (1996.2.20) ○「化学物質の危険・有害便覧」[中央労働災害防止協会編]

本書の取扱いと注意事項

有害性の評価は必ずしも十分ではないので取り扱いには十分注意して下さい。
この安全データシートは、当社の製品を適正にご使用していただくために必要で、注意しなければならない事項を簡潔にまとめたもので、通常の取り扱いを対象としたものです。
本製品は、この安全データシートをご参照の上、使用者の責任において適正に取り扱って下さい。
ここに記載された内容は、現時点で入手できた情報やメーカー所有の所見によるものですが、これらのデータや評価は、いかなる保証するものではありません。また法令の改正及び新しい所見に基づいて改訂されることがあります。

今回の改訂における主な変更点

「JIS Z 7252:2019」及び「JIS Z 7253:2019」に準拠。
最新の情報に基づきGHS区分の見直し。関連法規の見直し。